

事業名	景観形成推進事業費	財務コード (事業)	771202
-----	-----------	---------------	--------

細事業名	景観セミナー開催費
------	-----------

担当部課室	県土整備 部 県土整備総務 課 美しい県土づくり推進室 担当 (内線)	7121
-------	-------------------------------------	------

I 事業の概要

実施期間	始期 H17 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
事業の目的	誰(何)を対象に 県内の事業者、団体、住民、行政職員	その対象をどのような状態にして ・生活の快適さにおける風景・景観の重要性についての意識をもっている。 ・まちづくりや景観形成などに有用な手法について知っている。	結果、何に結びつけるのか 美しい県土の実現
	○事業概要 景観法やまちづくりについて、広く県民に理解してもらい、景観づくりについての意識高揚を図ることにより、地域が主体となった良好な景観づくりを推進するために、県民や市町村職員、景観に関わる事業者、まちづくり団体等を対象とする景観セミナーを開催する。 ○近年の実績 H21年度 色彩計画家 吉田愼悟「景色のデザイン～色彩から考える景観づくり」 平成21年7月15日(水) 敷島総合文化会館 H22年度 東京工業大学教授 中井検裕「景観まちづくりの意義と方法」 平成22年7月29日(木) 敷島総合文化会館 H23年度 建築家・デザイナー 西村浩「まち再生のためのパブリックデザイン」 平成23年7月13日(水) 県立文学館		
事業の内容 ※主に 23年度			
根拠法令等			

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	22年度	23年度		24年度	25年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	参加人数	180	200	236	250	250	目標設定の考え方 過去の実績値を参考とした。
	活動指標達成率 (実績値/目標値)		118.0 %				データの出典等 開催実績
成果指標	「よく理解できた」割合	30.53%	50%	60.90%	50%	50%	目標設定の考え方 県民と景観関係事業者やまちづくり団体が対象であり、「わかる」とともに「レベル確保」も必要であるため、「よく理解」と「ある程度理解」を成果達成度合いとした。
	「ある程度理解できた」割合	63.16%	50%	39.10%	50%	50%	また、次回参加希望を、景観意識保有の代替指標とし、目標を90%と設定した。
	「次回参加希望」割合	89.69%	90%	98.4%	90%	90%	データの出典等 アンケート調査実績
	成果指標達成率 (実績値/目標値)		%				成果指標によらない成果
決算額、予算額	139	134	150	150	150	大多数の方に、ある程度以上「理解できた」と評価されており、景観づくりへの関心を高める機会となっていると考えられる。また、県外の専門家を講師とする景観に特化したセミナーの数少ない機会であり、景観意識を高めることに貢献していると思われる。	
(千円) うち一財額	139	134	150	150			
所要時間(直接分)	62 時間	58 時間	50 時間	50 時間			
所要時間(間接分)	時間	時間	時間	時間			
所要時間計	62 時間	58 時間	50 時間	50 時間			
人件費コスト 単位:千円 (@2,021円×所要時間)	125	117	101	101			

III これまでの事業の見直し・改善状況

H19に市町村職員限定から県民や事業者にも対象を拡大、H20に郡内地区での開催、H23に美しい県土づくり推進大会の開催に伴い、景観セミナーで行っていたポスターセッションを当該大会で実施し、景観セミナーでは廃止
--

IV 活動量と成果の判断(平成23年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)		
数値判定 H23年度 活動指標 達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 ※数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定 H23年度 成果指標 達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 ※必ず記入すること
	b	受講者に対するアンケートによると、全ての人が「よく理解できた」又は「ある程度理解できた」と回答しており、実績値の合計は目標値の合計を100%達成している。また、次回も参加したいとの意向をもった人は98.4%であり、目標値の90%に対して109%の達成となった。これらによれば、景観やまちづくりに関する情報を広めることに寄与したと考えられるとともに、県民の景観づくりへの関心や景観意識の向上の機会となっており、意図した成果はほぼ上げていると考えられる。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

V 見直しの必要性(平成25年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)		
見直しの必要性	説 明	IV以外の判断項目
有	良好な景観形成を担うのは、市町村や建設業者だけではなく、近年はまちづくり団体やNPO法人など多様な主体の活躍が期待されるようになってきているため、従来の市町村及び県土整備部関連団体だけでなく、まちづくり団体などに対しても開催案内を送り、景観へ関心をもつ層の広範化と参加者の増加を図る。(新たな課題への対応、対象の変化) 昨年度立ち上げた美しい県土づくり推進会議事業と連携して推進会議構成団体をデータベース化することによって、当事業とデータの連携を図り、開催案内や申込者管理の合理化を図る。(プロセスの改善)	b、c、l

・「IV以外の判断項目」の欄

○必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) ○官or民(f.民間等実施) ○官の役割分担(g.市町村等へ移管) ○効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) ※行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	IV以外の判断項目

・「IV以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

VI 見直しの方向(平成25年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
改善済み	平成24年度の景観セミナー開催において、まちづくり団体など従来の案内送付団体と問題意識を異にする団体に対しても開催案内を送り、景観へ関心をもつ層の広範化と参加者の増加を図った。 昨年度立ち上げた美しい県土づくり推進会議事業と連携して推進会議構成団体をデータベース化することによって、当事業とデータの連携を図り、開催案内や申込者管理の合理化を図った。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、V見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。